

一宮市名誉市民「市川房枝」さん ～女性の地位向上に尽力～

一宮市は、市制100周年を記念して、前一宮市長の谷一夫氏と元一宮市長で前愛知県知事の神田眞秋氏に名誉市民の称号を贈りました。

名誉市民には、政治や産業、芸術などの発展に貢献した一宮市ゆかりの16名が選ばれています。女性としては、婦人参政権の実現に尽力した市川房枝さんや画家の三岸節子さんが選ばれています。

今回のDoorsでは、女性の地位向上や男女平等をめざし活躍され、今年2月に没後40年を迎えられた市川房枝さんの紹介を行います。

市川房枝さんは、明治26年、愛知県中島郡明地村（現在の一宮市明地）に、父 市川藤九郎と母 たつの男3人、女4人の三女として生まれました。

7歳で尋常小学校に入学し、4年で卒業後、高等小学校に進学し、さらに岡崎の第二師範学校女子部に入学し、大正2年に朝日の尋常高等小学校に勤務します。

大正8年に上京し、長兄の紹介で語学塾を開いていた山田嘉吉・わか夫婦と知り合い、この塾で、

女性文芸誌「青鞥」^{せいとう}を創刊し、女性問題に取り組み、後世に「元始、女性は太陽であった」との言葉を残した平塚らいてうと出会い、新婦人協会を設立します。

大正10年、アメリカに旅立ち、新聞社の特派員となり、全米婦人党のリーダー、アリス・ポールに出会い、婦人運動に取り組む重要性を強く進言されます。

大正13年帰国後、国際労働機関（ILO）東京支局に勤務、女性の炭坑坑内労働や紡績業の深夜業を禁止する決議の採択に努力し、その後女性が政治に参加する必要があると考え、婦人参政権運動に取り組めます。

しかし女性が選挙で一票を投じる事ができたのは、昭和21年4月10日に実施された戦後初めての衆議院議員選挙でした。この選挙の結果、日本初の女性議員39名が誕生しました。

市川房枝さんは、昭和28年に行われた参議院議員選挙東京地方区に立候補し、第2位で当選し、以後全国区を含めて5回当選をし、女性の地位向上に活躍しました。



議会だよりの刷新について

令和3年度情報通信白書（総務省）によると、2020年のインターネット利用者の割合は83.4%となりました。また、世代間の格差も縮小傾向にあります。ICTサービスの利用拡大に伴って、年々紙媒体による情報発信の役割も変容しつつあります。

こうした背景も踏まえ一宮市議会としては、次年度から市議会の情報発信の在り方を見直し、議会だよりの掲載内容も刷新いたします。

具体的には令和4年度から、市議会の情報発信は主に市議会ウェブサイトから行い、現在のウェブサイトを分かりやすく、見やすい構成とするとともに、より早いタイミングで情報発信できるよう更新スケジュールも見直します。

また、紙媒体を中心に情報に接している方々のために、年4回発行している現在の議会だよりは今回の見直し後も、最近の一宮市議会の主だった動きなどの紹介とともに、市議会ウェブページの掲載先を案内する概要版（A4判4ページ）として発行いたします。

この概要版は、当分の間、これまでどおり市広報紙への折り込みにより、各世帯へ配布いたします。なお、概要版への切り替え時期は、令和4年5月号からを予定しています。

今後とも市議会が市民の皆さまの身近な存在となるよう、情報発信の充実に努めてまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いたします。